



Sapporo Gakuin University

学園広報

2000. 12. 11 No.77

編集・発行 札幌学院大学 企画調査室
〒069-8555 北海道江別市文京台11番地
電話 (011) 386-8111
http://www.sgu.ac.jp

道内私大初!! エルネット オープンカレッジに参加



アクティブセンターで熱心に聴講する受講生のみならず

本学では、この秋に北海道の私立大学としては初めて文部省の教育情報衛星通信ネットワークを構築し、全国の教育関係施設を衛星回線を通じて、それぞれの機関で実施されているプログラムを相互に接続して、教育の充実・情報化を推進する事業を推し進めております。この一環として、昨年からは、エルネットオープンカレ

参加の形態は、ビデオ収録したものを用いた配信方式と、今回は、本会場であるアクティブセンター(札幌市中央区)のほか札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」(札幌市西区)を会場として用意し、両会場をテレビ会議システムで結ぶなど、今まで遠くの会場まで出かけることが困難だった方々にも気軽に参加いただけるよう工夫いたしました。当日、「ちえりあ」で受講された方々からは、「テレビ画



テレビ会議システムを利用して「ちえりあ」で聴講する受講生のみならず

て本年度以上に多くの大学の応募が予想されています。本学では、二年連続での参加を目指してより良い講座を企画するべく、現在鋭意検討を重ねています。今後、教育分野における情報技術や通信技術の果たす役割は、一層高まる傾向にあり、これらを活用した正課授業や生涯学習の展開も益々盛んになると思われま

ジと題して大学等の公開講座の放送が実験的に開始されました。これは、各大学の公開講座の模様を生放送又はビデオ放送により全国の公民館、生涯学習施設等約一三〇〇箇所を超える施設に配信するもので生涯学習の面ばかりではなく、大学の新しい遠隔教育の在り方を探る面からも注目されているものです。本学からは、札幌学院大学アクティブセンターで開催された「現代社会の中の心理学」のうちから「科学技術と心のひずみ」「子供の発達と家族」「思春期の心」「夫婦関係の心理学」の四講座が参加いたしました。

本年五月二十七日から札幌学院大学アクティブセンターで開催した市民向け講座「コミュニケーション・カレッジ」は、お陰様で好評のうち八月二十五日前期の講座を終了いたしました。

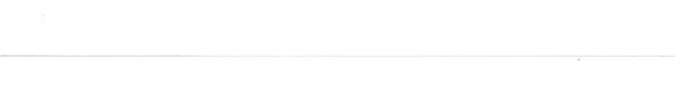
前期講座は、「経営シミュレーション・ゲームによるマネジメント体験セミナー」を皮切りに、「一般教養講座六コース、パソコン講座八コース」でスタートいたしました。初年度にもかかわらず、幸い多くの市民の関心を集め、一般教養講座の受講者が合わせて二五六名、パソコン講座受講者が合わせて二七四名、合計

五三〇名(うち一般四二二名、同窓生〇七名、教職員六名、学生五名)と、予想をはるかに超える市民の皆様が受講されました。なかでも、「心の病を克服」「ジェンダー」の社会

の重要性を改めて認識させられました。講座終了後のアンケート調査でも、テーマ・内容ともにほぼ好評を得ることができ、市民の生涯学習の意欲に応え、本学の教育研究をPRするとともに、同窓生と

座(六月二十七日から四回各十名)を開講して好評を得、福祉に関連して社会的にも貢献できたと思っております。引き続き後期講座も十月から始まり、既に約七八〇名の方々が申し込みされています。今後とも受講される市民の期待に応えられるよう「コミュニケーション・カレッジ」をより一層充実させていきたいと思っておりますので関係各位のご協力を宜しくお願いいたします。

札幌学院大学アクティブセンター「コミュニケーション・カレッジ」前期講座終了



講演する琴似商店街振興組理事長 玉田一至氏

後期講座一覧	
講座名	
現代社会の中の心理学—心の健康と臨床心理学—	
マネジメントゲームで学ぶ戦略的経営	
私たちの暮らしと環境—今すぐできるエコライフ入門—	
アジア経済の旅	
英会話講座 海外旅行に役立つ初級英会話	
基礎から学ぶ楽しいパソコン講座 (11コース)	

※すでに申し込みを締め切っているものもあります。
※詳しくは札幌学院大学エクステンションセンターまでお問い合わせ下さい。
Tel 011-386-8111 内線 2400

商学部公開講座

街をつくる

商学部公開講座(実務家によるリレー講座)は、経営者や実務家から経済実態の貴重な話を聞けるという点で、毎年三〇〇人前後が履修する人気講座の一つとなっています。今年度は、小売業や消費行動の変化による商店街の衰退と地域問題、その対応策について、タウン・マネジメント論を軸として取り上げました。

中心市街地活性化とは何か、中心市街地活性化法とタウン・マネジメント機能の役割、街づくりに必要な新しい考え方や努力について

第1回 8/28(日)	今なぜ中心市街地活性化か ～市街地と商店街の活性化策～ 北海道情報大学教授 佐久間 安 世氏
第2回 8/29(火)	伊達市役所通り商店街の近代化 [事例研究1] 伊達市役所通り商店街振興組合相談役(前理事長) 佐藤 正 男氏
第3回 8/30(水)	中心市街地活性化法とタウン・マネジメント機能の 機能と役割 北海道通商産業局商業振興室 課長補佐 三木 一 弘氏
第4回 8/31(木)	置戸町の街づくり [事例研究2] 置戸町建設課 前課長補佐 柿崎 邦 雄氏
第5回 9/1(金)	中心市街地の管理と運営 ㈱シグマ都市コンサルタント 代表取締役社長 高 須 喜久男氏
第6回 9/2(土)	札幌・琴似商店街の活性化策 [事例研究3] 琴似商店街振興組理事長 玉田 一 至氏

講演する琴似商店街振興組理事長 玉田一至氏

韓国・東国大学校との学生交流

異文化を超える共感と感動の二週間

札幌学院大学の海外提携大学六校の一つである韓国・東国大学校(ソウル市)から、学生十名(男子三名、女子七名)が六月十九日(月)から二十五日(日)にかけて本学を訪問し、本学学生と積極的交流を深めた。三泊四日のホームステイを伴った初めての短期交流団の受け入れであったが、学生による歓迎委員会(十一名、金学部からの学生ボランティア(六十一名)、教務課、国際交流センター)による事前準備のおかげで当初の予想を超える成果を挙げることができた。二十一世紀を担う日韓の若者にとって相互の理解を深める貴重な交流となった。また、韓国でも評価の高い東国大学校からは国際交流第二日目は本学学生ボランティアによる日本語講座



ホストファミリーとの別れを惜しむ送別会

授による講演会に参加し、その中で学生たちも現代の韓国学生生活についてそれぞれの視点から英語で発表した。百人程度集まった本学学生にとっては、最も近い外国である韓国の大学生活を知る貴重な機会であったと同時に、同じアジアの学生たちの流暢な英語に触れ、大いに学習意欲が刺激される講演会となった。韓国学生たちも疲れが出てくる頃の第四日目であるが、午前八時半から始まる日本語講座に全員が元気に集まり、ボランティアの学生と基本的な会話表現の練習に熱心に励んでいた。午前中はそれぞれ講義に参加し、午後からは本学学生とともに北海道開拓記念館を訪れ、本州とは異なる北の大地の歴史と文化の理解を深めていた。六月のさわやかな晴天のもと、森林公園の緑風を頬に受けながらの散策は北海道の自然に触れる貴重な機会となった。

本学でのプログラムの最終日は、北海道の文化に関する講座を受講し、現代日本の若者文化に触れ、講師との質疑応答を楽しんだ。午後からは「オープン・デイスカッション」に参加し本学学生約四十名と小グループに分かれ「遊

び・学生生活・恋愛」をテーマに大いに語り合った。その後には体育館に移動し、本学の「よさこいチーム」による指導を受けて、拍手木を打ち鳴らし、日韓学生は一同となって若さを爆発させていた。午後五時半から開催された送別会は記念写真のフラッシュと歓声が響いていた。お世話になったホストファミリー十家族二十数名のご参加をいただき、別れを惜しむお互いの思いは尽きず、終了予定時間を大幅に超える感激溢れる会となった。廣川和子教務部長はその挨拶の中で、この学生交流の意義を再確認し、関係諸団体に感謝の言葉を述べた。続いて引率の金英敏教授はその謝辞の中で、今回の学生交流プログラムを高く評価し、清潔で機能的なキャンパスに対する賛辞とあわせて、本年十一月に予定されている本学からの訪問団受け入れと来年の継続への強い意欲を表明された。

晴天に恵まれた土曜日は、札幌市内観光を通して本学学生との相互交流は継続し、夕方には学生主催による交流会が開かれ、大いに盛り上がり、翌日、予定通り午後二時の便で本学学生、ホストファミリー、国際交流センター教職員の送りを背に帰国の途についた。

料理試食会」を開催し、多くの学生が韓国の家庭料理を味わうことができた。日本人学生には少し辛めではあったが、韓国人学生が驚くほど人気があり、用意した約二百食も三十分でなくなるほどの盛況であった。午後からは金英敏教授

授による講演会に参加し、その中で学生たちも現代の韓国学生生活についてそれぞれの視点から英語で発表した。百人程度集まった本学学生にとっては、最も近い外国である韓国の大学生活を知る貴重な機会であったと同時に、同じ

アジアの学生たちの流暢な英語に触れ、大いに学習意欲が刺激される講演会となった。韓国学生たちも疲れが出てくる頃の第四日目であるが、午前八時半から始まる日本語講座に全員が元気に集まり、ボランティアの学生と基本的な会話表現の練習に熱心に励んでいた。

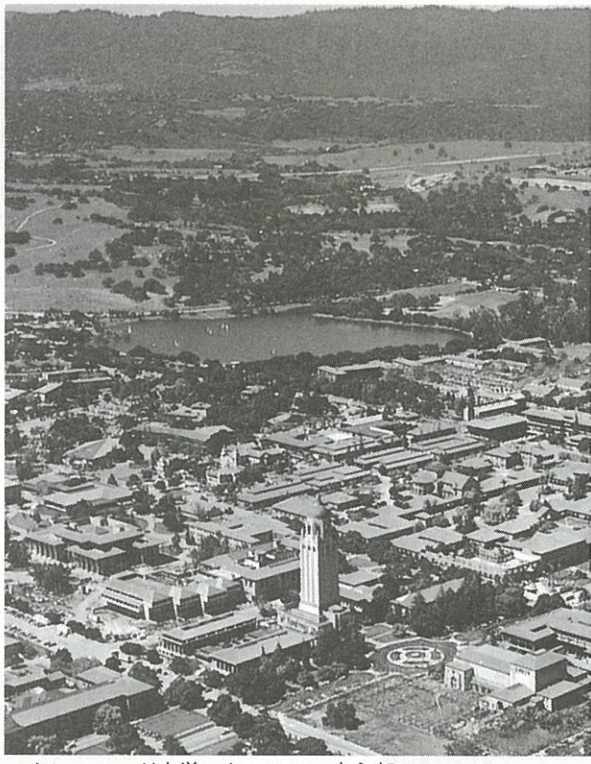
本学にとっては初めての短期学生交流ではあったが、上記のように多様な交流プログラムを通して本学学生も大いに啓蒙を受け、特に韓国の歴史、文化、言語への関心を高めたことは確かである。このプログラムの実施にあたり、積極的に参加した学生諸君、ご協力頂いた江別市民国際センター、思い出に残る貴重な生活体験をご提供頂いたホストファミリーの皆様へ深く感謝しつつ、十一月下旬に予定されている本学からの学生訪問の成功を祈念したい。

国際交流センター長 富町 誠一

アメリカ発

シリコンヴァレーの便り

社会情報学部教授 金 明哲



スタンフォード大学のキャンパス中心部

今年四月よりスタンフォード大学にきています。まず、この場を借りて皆様にお礼を申し上げます。

スタンフォード大学はカリフォルニア州Palo Alto市に位置している。スタンフォード大学の近くには、シリコンヴァレーのIT (Information Technology) 産業の基幹企業

好調である。表にシリコンヴァレー近辺のハウスの中央値を示す。表からわかるように、ハウスの値段は五年間で約倍値上がりしている。ちなみに、Palo Alto市のDKの部屋の賃貸は一月二千ドル(約二〇万円)一ドル一〇〇円)前後が相場である。

表 ハウスの中央値 (Median)

City	1994	1999
Palo Alto	408,942	937,500
Menlo Park	406,675	762,000
Mountain View	322,438	532,125
Los Altos	549,104	1,343,192
Cupertino	394,875	835,000
Sunnyvale	289,958	553,333
Santa Clara	236,227	323,500
San Jose	219,458	420,333
平均	353,460	713,373

単位:ドル

ある。四月にここに着いたときには、これ以上は値上がりしないであろうと思っていたが、今でも値上がりが続いている。この一般職の年収は家賃ほど値上がりしていない。ちなみに、Palo Alto市の学校教員の年収は一九九五年が二九、三三〇ドルで、一九九九年度は三三、九一〇ドルであった。この情報関連職の年収は非情報系よりはるかに高い。私の知人の一人(三五歳)は、ある情報関係の会社でネットワーク関連の職をもっている。彼の大まかな話に

よると、この二三年、年俸は約一〇万ドル、ボーナスは会社の株を配当金として毎年約一〇万ドル相当のものをもっているというのである。また、他の知人の一人が、今年九月にスタンフォード大学統計学科から博士學位を取得しHPに就職した。初任給を聞いて、年収は約九万ドルだそうである。シリコンヴァレーの景気から連想されるのは日本のバブル時期である。しかし、この「バブル」は昔の日本のバブルとどこかが違うように感じる。

今回の中国への留学は、私にとって大きな意味を持つものとなった。異国の地での生活、様々な人とのコミュニケーション、見たこともない料理など、どれも初めての経験だった。しかし、これらの経験は、私という人間を確実にひとまわり大きくしたといえる。

私が訪れた北京は、中華人民共和国の首都というだけあり、東京や札幌に劣らないような大都市だった。そのため交通も買い物も、とても便利だった。日本よりも物価が安



中国人民大学の李先生と友人と共に大学の前にて。前列が筆者。

観光名所をいくつもまわり、買い物もたくさんした。中国の庶民の生活の様子を見て、日本との違いに深く考えさせられたこともあった。又、「戦争記念館」を訪れたり、道端に横たわっている物乞いの人達を目の当たりにしたことで、世界における日本の立場のようなものが少しだけ見えたような気がした。

今回の留学で私を大きく変えたものの一つに、人々との出会いがある。特に、他の国々から来た人達との中国語を通じての交流は、お互いの語学力を高めるだけでなく、私自身の国際人としての自覚を高めるものとなった。

中国人民大学 留学リポート

人文学部人間科学科2年 金子 史

中国の二八日間は、勉強、自由時間共にとても充実したものであった。初めのうちは先生の言っている事が何一つ分からなかった語学の授業も、だんだんと理解できるようになり中国での生活の中で応用できるほどにまで上達した。自分の語学力が上がって、いくつもの実感できたことが、何よりも嬉しかった。午後からの自由時間には、毎日いろいろな所へ出掛けた。有名な

観光名所をいくつもまわり、買い物もたくさんした。中国の庶民の生活の様子を見て、日本との違いに深く考えさせられたこともあった。又、「戦争記念館」を訪れたり、道端に横たわっている物乞いの人達を目の当たりにしたことで、世界における日本の立場のようなものが少しだけ見えたような気がした。

今回の留学で私を大きく変えたものの一つに、人々との出会いがある。特に、他の国々から来た人達との中国語を通じての交流は、お互いの語学力を高めるだけでなく、私自身の国際人としての自覚を高めるものとなった。

教職員人事

- ◎異動
 - 平成十二年六月二十六日付
 - 総務部長 総務課長兼務 石田 秀導 学生事務部長
 - 財務部長 石田 勲(企画調査室長)
 - 学生事務部長 片桐 宏理(教務事務部長)
 - 教務事務部長 小柴 寛芳(財務部長)
 - 企画調査室長 渡辺 利夫(総務部総務課長)
 - 教務部総務課 井上 寿枝(図書課)
 - 財務部管理課 高橋 秀昌(教務部教務課第二部)
 - 図書課 菅原 真紀(企画調査室企画調査課)
 - 企画調査室企画調査課 山本 勝(財務部管理課)
 - 平成十二年六月三十日付
 - 教務部教務課(第一部) 佐藤 秀之(学生部就職課)
 - 学生部就職課 加藤 祐司(教務部教務課)
 - 教務部入試課 中村 圭二(教務部教務課)
 - 財務部財務課 斎藤 学(教務部入試課)
 - 教務部教務課 稲垣 愛弓(財務部財務課)
 - 平成十二年十一月一日付
 - 財務部財務課長 竹本 隆(学生部学生課長)
 - 総務部総務課長 松田 昇一(財務部財務課長)
 - 学生部学生課長 石田 節子(総務部総務課人事係長)
 - 総務部総務課人事係長 高橋 晃治(総務部総務課総務係長)
- ◎退職
 - 平成十二年六月三十日付
 - 芳岡 正純(企画調査室企画調査課)
 - 小山内美津枝(学生部学生課、保健員)
 - 末永 紀典(学生部学生課)
 - ◎採用
 - 平成十二年十一月一日付
 - 山崎 英哉(教務部教務課)
 - 北海道教育大学教育学部札幌校卒業

就職内定者から 後輩諸君へメッセージ

企業を知ることは就職活動の原点です。闇雲でもいいから始めてみる。どんな企業か、何を必要としている企業かを知らなければ自分は何をどう人間か、今まで何をどうして実行し、これから何をしようとしているのか、それを考える必要に迫られてきます。また始めから内定を手にするとは、何れも、何れも面接を繰り返して、試行錯誤を重ねた結果、自分に足りないものに気付くでしょう。そこで少しずつ補充していくことで



「企業が欲しい人物」へ

(株)北洋銀行内定
経済学部経済学科4年 篠原 哲郎

「企業が入りたい一学生」から「企業が欲しい人物」に確実に変わっていきま。大切なのは考え方です。内定はあくまで通過点に過ぎません。内定を貰えなかった時は、理由は何かに足りなかったか、企業とのマッチしなかったか、落ち込むのではなく、何故落ちなかったかを真剣に考えましょう。そういった経験も、自分を昇華させるために欠かせないものです。その事を忘れなければ就職活動は苦しいことではなく、自身をスキルアップすることと気付くでしょう。そこで初めて志望先を選ぶスタートラインに立てるのだと思えます。



「自分に自信を持つ それが成功への第一歩」

北海道労働金庫内定
人文学部英語英米文学科4年 本間久美子

今年の就職活動は確かに厳しい状況でした。落ち込みもありましたが、「必ず良い結果が出る」と信じて活動続けました。どの企業も本人の適性を見ているのだと思います。だから私の場合、落ちたとしても「合わないだけ」と割り切って、次の企業を探しました。私が活動中、最も苦戦したのは面接でした。活動初期は恐ろしいほど何も言えませんでしたが、面接を受けていく中で、自分のやりたい仕事、入りたい企業という



「明確な目標そしてやる気の持続」

札幌市役所合格
商学部第二部商学科4年 猪又 久司

のが見え始めました。笑顔と自信を持っていけば、自然と余裕が生まれ、面接でもありのままの私が出てきて、良い結果が出るようになりまし。最終的に、私のことを一番理解してくれた企業から内定をいただくことができました。就職活動で大事なものは、「気持ち」の持ち方だと思います。とにかく自分に自信を持ちましょう。おそらく一番の難関である面接は、難しい言葉を使える場所ではありません。自分を理解してもらい、企業への思いを伝える場所なので、準備は通い始めることにしました。それから、昼は予備校、夜は大学という多忙な生活が続き、自分は「ここまでして本

イギリス発

素晴らしき文化に触れて

人文学部助教授 T. P. P. Grose

四月にイギリスに来てから五ヶ月間はとも早くすぎました。始めの何ヶ月間は、リバースカルチャーショックに驚かされる日々でしたが、今はイギリスでの生活に慣れてきた所です。私は今チェスター大学のCentre of International Education and Managementで働いています。ここではいろいろな国から来たいろいろな生徒が沢山いて、彼等と会うのが毎日楽し



ました。昼休みには近くに公園へ行き、昼食を食べます。時にはリストとサンドイッチを半分こです。我が家は、チェスターから車で十分程のナットボーンと言う所にあります。海が近く、いい散歩コースが沢山あります。また、South Downsという丘の近くでもあり、とても散歩が楽しめます。今はブラックベリーシーズンで、よく家族で摘みに行きます。こつちに来てから私達は重要な遺産保護活動の一端を担っていると言われている、ナショナルトラストの会員になりました。Thomas HardyやJane Austenの家を訪ねたり、J. W. TurnerやWilliam Blakeの絵を見に行きました。イギリス人として、イギリスの文化を改めて見たり触れたりできる事を嬉しく思います。こうしたすばらしいイギリスの文化を日本にいる生徒達や

しみです。私の研究の一つはその学生達にインタビューをし、彼等の体験談を聞く事です。大半の学生は沢山の経験をしてきた人達ばかりでした。聞いていてとても興味深いです。大学の諸先生は、皆とても親切で協力的です。私の研究についてとてもいいアドバイスを沢山くれます。休みの日には先生達にさそわれてクリケットをしに行きました。でも残念ながら負けてしま

友人にぜひ紹介したいと思えます。残念なことが一つあります。日本語を忘れてしまいました。です。日本語をよろしくお願ひします。



南ウェールズのブレコン・ビーコンズ国立公園にてワイルドシープと交流「故郷はどちら？」

講演と音楽の夕べ

美しいハーモニーを奏でた(左から)漆原啓子(ヴァイオリン)、林絵里(ピアノ)、土田英順(チェロ)の各氏。円内は講演する小片基人文学部助教授。



講演と音楽の夕べ スピリチュアルケアへの 関心をめぐって

大学院臨床心理学研究科開設記念、第十四回学術講演会「講演と音楽の夕べ」が、十月七日(金)午後六時三十分より札幌共済ホールで開催された。当日は好天にも恵まれ、多くの市民・同窓生らが訪れ、開演前に六五二席の会場が満席となり、大盛況であった。狩野陽学長の挨拶の後、講演は、人文学部の小片基教授が、「スピリチュアルケアへの関心をめぐって」と題し、日本では、ターミナルケア・終末医療等が行われ始めているが、WHOでは「スピリチュアルケア」という言葉が使われてきている。ドイツでのHIV患者ホスピスの体験やアメリカでのアルコール依存症治療における集団療法の実例などを紹介しながら、遺伝子治療等々科学万能となろうこと、「死」を受け入れる人間、つまり看護される側の希望に沿った治療の在り方を考える必要がある、と強く訴えられた。音楽は、「下りの名曲」と題しピアノ林絵里氏、ヴァイオリン漆原啓子氏、チェロ土田英順氏によるハイドン・ピアノトリオ 第三九番 ト長調 作品 七三二、スメタナーピアノトリオ ト短調 作品 十五 が演奏され、聴衆は美しいハーモニーに心が和まれた様子であった。当日のアンケートからは、「講演・音楽ともに最高の夕べ」が堪能できた、と好意的な感想が多数寄せられた。なお、会場の関係から立ち見席や一部入場をお断りせねばならず、入場できなかった方々には紙面をかりて深くお詫言ひ申し上げます。

父母懇談会開催 父母と教員の交流深まる

父母と大学の相互交流をめぐり、札幌学院大学後援会との共催で父母懇談会を道内四ヶ所(帯広市・釧路市・岩見沢市・本学)で開催しました。各会場とも全体説明会において、本学の教育目標と学生生活、就職活動の紹介、成績表の見方の説明があり、引き続き、個別面談で修学状況や大学での生活等について、あらかじめ学生との面談を行っている教員が父母と懇談しました。また、就職相談コーナーを設けて希望者が質問・相談できるようにし、個別面談を待つ間に、個別面談を待つ間に、個別面談を紹介ビデオを上映しました。本学以外の会場では懇談会がちょうど昼食の時間帯にかかるということもあり、今年度から面談担当教員とともにテーブルを囲んで食事をしたところ、「同席の方とお話ができ、先生とも親しく懇談



なごやかな雰囲気での懇談会

できてよかった」との感想が多数寄せられており、来年度もコミュニケーションをはかるひとつの方法として続けていきたいと思っています。一方で「本人が一生懸命取り組んでいますので今後も指導をよろしくお願ひします。」(札幌学院大学の良さを維持する予定です)。

第30回

大学祭を終えて



盛り上がった記念すべき「生後三〇祭」

今回札幌学院大学大学祭は、三〇回という記念すべき節目の年を迎える事になりました。今回の大学祭テーマは、「生後三〇祭」という、これまでと今の大学祭の歴史を来場者と共に祝い、盛大なパーティーとなるような大学祭という意味を含め、今回の大学祭の準備を進めてきました。

第三〇回札幌学院大学大学祭は、これまでの恒例となっているビールパーティー・文京台なご祭り・フリーマーケットを始め、北海道浅井学園大学大学祭と合同のスタンプラリー、そして人文学部学生自治会からの持ちこみ企画として本学生から要望の多かった犯罪心理学講演会、商学部第一部学生自治会や法学部学生自治会からは、それぞれいろいろな工夫がなされたビンゴ大会など大学祭実

行委員会と学生自治会が一体となったすばらしい大学祭を開催できたのではないかと感じています。

来年度以降の大学祭は、新しい世紀を迎え、これまでの大学祭を礎とした大学祭が生まれてくるのではないかと考えています。今回の大学祭で課題となった面をうまく乗り越え、さらに札幌学院大学大学祭が発展していくことのできる大学祭実行委員会が今後組織されていくことを願っています。

最後になりましたが、第三〇回札幌学院大学大学祭を応援してくださいました学生諸団体並びに大学関係者の方々、そして同窓会である文京会の方々に、大学祭実行委員会のOB・OGの方々から御礼を申し上げます。

第三〇回大学祭実行委員会
実行委員長 高橋 誠

主将をやらせて頂いている高橋英行と申します。私は高校時代からの目標「日本一」を達成したく、夢と希望を抱いて、この札幌学院大学ソフトテニス部に入学しました。

私を迎えてくれた人々は皆素晴らしい方ばかりで、このような方々と共に今年を含め三年間、「日本一」を目指し頑張ってきましたが勝負の世界は厳しく、未だ「日本一」は達成していません。しかし、幾多の勝利や敗退の中から何かつかんでき、我々ソフトテニス部は常に前向きに進んできました。そして、そこで培われた技術や精神力、一致団結したチームワークを武器に再び全国に挑戦していきます。勝負への執着は大切です。しかし、勝ち負けを意識してただ強いだけのクラブ、そんなクラブには全く魅力がないと思います。技術もさることながら「人間性」、この心技両



面を兼ね備えてこそ選手として、人間として一流と言えるのではないのでしょうか。過去団体戦では全日本王座決定戦

ソフトテニス部
人文学部三年 高橋 英行

本年六月十一日に行われた第九十五回日商簿記検定試験で簿記検定試験の難関である日商一級に本学会計学研究所講座部の受講生の小野寺伸一君(商学部四年・三本木高校出身)と佐々木伸也君(商学部一年・土別商業高校出身)がめでたく合格した。これは、昨年度も二名の合格者がでていたことから二年連続して二名ずつ合格したことになる。

日商簿記検定一級の内容は大学程度の商業簿記・会計学・工業簿記・原簿計算の四科目であるが、近年わが国の日本版ビックバン(金融改革の影響で会計革命といわれる)と会計士の仕組みや内容が複雑で難しくなっている。そのため、試験問題の内容も連

級に合格することは、職業会計人をめざす者にとって税理士や公認会計士になるための試験に挑戦するための第一歩を歩み始めたということができる。また、北海道教育委員会は、高校の教員採用試験(商業)で日商簿記検定一級合格者について専門科目の試験を免除しているため、教職をめざしている者にとってもその目的に近づくことになる。したがって、この検定試験の合格を生かして各々が専門家への道を自覚して挑戦して欲しいと思っている。

なお、今年度の簿記検定試験は、十一月にも行われることから続いて合格者が輩出されることが期待されている。

商学部教授 坂下 紀彦

七月三十一日(月)に夏の「オープンキャンパス」が実施された。当日は、高校が既に夏休みに入っていたことや事前の広報効果もあつたか、新札幌から用意した送迎バスが乗り切れないなど、受付時から、いまだかつてない混雑となり、全体説明会を遅らせるほどとなった。最終的には、過去十二年間で最高の約七〇〇名が参加され、入試課では急遽配布資料を追加するなど、うれしい悲鳴が飛んでいた。

なお今回は、特に福岡・千葉といった道外をはじめ、道内でも地方からの参加者が多く、この点が参加者数の増加に影響していた。



ミニ講義には興味津々

内容としては、今回初めて「四のテーマ」を用意した「ミニ」実施した「学食体験」や、「講義」のほか、学科の内容、入試全般、就職・資格講座、学生生活、アパート・下宿等について相談できる「個別相談会」、更には「施設見学」、「クラブ見学」等を実施した。なかでも「学食体験」では、「味も良く学食の雰囲気も体験できた」との声が多数寄せられたほか、「ミニ講義」では、特に申請中の臨床心理学科に関する講義に人気を集めるなど参加者の関心の高さがうかがえた。また、「施設見学」では、図書館・CAL教室で担当者から説明があり充実した教育環境に驚いた様子であった。

全体的な感想としては、「大学の講義のしくみや雰囲気がかつめとても良かった」というミニ講義に関する感想が一番多く実際の授業内容に興味を示していることが感じられた。また、「来る前はあまり期待していなかったが、参加して第一志望が変わった」、「最初は興味があつたが来てみて受験する気になった」



大人気の学食では行列も

など、実際に見て聞いて体験することによって本学の印象が変わった参加者が多く、「オープンキャンパス」での体験が高校生に大きな影響を与え、このことを改めて実感した。

今後は、大学の重要なイベントとして、多くの人にPR出来るよう、より一層充実させたいと考えている。

九月十日、秩父別町において行われた、北海道大学駅伝大会において、我々札幌学院大学は優勝を勝ち取ることができました。三年前の平成九年の大会でそれまで続いていた連覇が止まり、一昨年の大会では八区のアナカーで逆転勝利、続く昨年も最終区での勝負となり辛くも八秒差という僅差で優勝するなど、ここ数年は非常に苦しい展開で勝敗を競ってきました。しかし、今年度は二位以下に四分以上の大差をつけての優勝となり、レース中も常に有利な展開で進んでいき、今回の結果に結びつきました。

我々も最終的な目標が全日本学生駅伝大会である以上、全道駅伝においては優勝以上に内容も問われてくるため、今回の大会では十一月五日の全日本学生駅伝大会に向けて、非常に良いステップアップになったと思います。特に今年はお礼申し上げます。

陸上競技部 社会情報学部四年 佐藤 一平



夏の「オープンキャンパス」過去最高の700名が参加！

ミニ講義・学食体験が大好評

入試全般、就職・資格講座、学生生活、アパート・下宿等について相談できる「個別相談会」、更には「施設見学」、「クラブ見学」等を実施した。なかでも「学食体験」では、「味も良く学食の雰囲気も体験できた」との声が多数寄せられたほか、「ミニ講義」では、特に申請中の臨床心理学科に関する講義に人気を集めるなど参加者の関心の高さがうかがえた。

陸上競技部 全道大会連覇

全日本大学駅伝出場へ

今年度は二位以下に四分以上の大差をつけての優勝となり、レース中も常に有利な展開で進んでいき、今回の結果に結びつきました。

二年連続二名合格 日商簿記一級 会計学研究所講座部

本年六月十一日に行われた第九十五回日商簿記検定試験で簿記検定試験の難関である日商一級に本学会計学研究所講座部の受講生の小野寺伸一君(商学部四年・三本木高校出身)と佐々木伸也君(商学部一年・土別商業高校出身)がめでたく合格した。これは、昨年度も二名の合格者がでていたことから二年連続して二名ずつ合格したことになる。

級に合格することは、職業会計人をめざす者にとって税理士や公認会計士になるための試験に挑戦するための第一歩を歩み始めたということができる。また、北海道教育委員会は、高校の教員採用試験(商業)で日商簿記検定一級合格者について専門科目の試験を免除しているため、教職をめざしている者にとってもその目的に近づくことになる。したがって、この検定試験の合格を生かして各々が専門家への道を自覚して挑戦して欲しいと思っている。

なお、今年度の簿記検定試験は、十一月にも行われることから続いて合格者が輩出されることが期待されている。

商学部教授 坂下 紀彦